
生涯学習開発財団 2018(平成30)年度 博士号取得支援事業
【募集要項】

■採用予定人数

特に人数は定めません。

■助成金の支給

- ・支給金額は1人あたり年間50万円
- ・支給期間は1年とする。
- ・支給日は2019年3月
- ・下記の項目にあてはまる事態が生じた場合、助成の取り消しをします。
 - ①申込書に虚偽の内容が記載されていることが判明した場合。
 - ②対象者から活動状況の報告がなく、あるいはその内容が不適切と判断される場合。
 - ③その他、当財団との信頼関係を著しく損ねる行為があった場合。

■応募資格

以下の条件を満たす者

- ・50歳以上(性別、国籍、所属を問わない)
- ・日本国内に在住している者
- ・博士課程(博士後期課程を含む)に在籍するか、論文博士号の取得をめざし、かつ実行性の高い研究計画書を作成した者もしくは博士論文の一部をすでに作成した者
- ・日本国内の大学で博士号を取得予定の者
- ・日本語で論文を作成する者
- ・品行方正、勉強に熱意を持っている者
- ・当財団のホームページ及び情報誌にて、氏名・年齢・研究タイトル・写真の公開を了承する者

■応募方法

- ・提出書類
 - ①指定申請書
(Wordファイル)
 - ②身元証明書(在学証明書、住民票、外国人登録済み証明書など)
 - ③研究計画書
 - ④学業成績証明書(直近のもの。ただし、博士課程に在籍する者のみ)
 - ⑤完成した論文のコピー(部分可。ただし、博士課程に在籍せず、論文博士を目指す者のみ)
 - ⑥指導教授の推薦書(博士課程に在籍する者)
 - ⑦論文指導をする者(論文提出先の者が望ましい)の推薦書
(注)博士課程に在籍中の応募者は①②③④⑥を、博士論文を執筆中の応募者は①②③⑤⑦の提出をお願いします。なお、⑤は任意提出
- ・応募締切日
2018年12月14日(金)必着

■選考

- ・提出書類および面接により選考を行います。
 - ・書類選考の上、面接を行う予定ですが、面接の日程など詳細については対象の方のみ、申請書にご記入いただいたメールアドレスにメールするか、あるいはご記入の住所に送付します。
 - ・合否の最終通知は本人の住所宛に送付します。
-

募集
開始

2018(平成30)年度

博士号

取得支援事業

生涯学習開発財団は、「人間は感動する心を失わず、何ごとかを学び続ける限り、年齢にとられない生き方をすることができる」という理念のもと1983年に設立されました。

平均寿命が延びる今、定年後も学習を継続し、社会へ貢献し続ける中高年の存在は、日本社会にとって大きな支えとなります。

財団では、現在博士号の取得を目指す50歳以上の方々を対象に、2011年度から支援事業を行っております。この取り組みを通して、来るべき高齢化社会の生涯学習を促進し、よりよい社会作りに貢献することをめざしています。

本事業は、国籍や性別を問わず、また、研究領域は文系・理系を問いません。独創的で社会的な意義のある研究を行い、博士論文を執筆中あるいは提出が予定されているすべての方に門戸は開かれています。皆様からの積極的なご応募をお待ちしております。

■ 採用予定人数

特に人数は定めません。

■ 助成金の支給

- ・支給金額は一人あたり年間50万円
- ・支給期間は1年
- ・支給日は2019年3月

■ 応募資格

以下の条件を満たす者

- ・50歳以上（性別、国籍、所属を問わない）
- ・日本国内に在住している者
- ・博士課程（博士後期課程を含む）に在籍するか、論文博士号の取得をめざし、かつ実行性の高い研究計画書を作成した者、もしくは博士論文の一部をすでに作成した者

- ・日本国内の大学で博士号を取得予定の者
- ・当財団のホームページ及び情報誌にて、氏名・年齢・研究タイトル・写真の公開を了承する者

■ 応募方法

(1) 提出書類

- ・指定申請書
- ・身元証明書
- ・研究計画書
- ・推薦書 ほか

詳細は募集要項でご確認ください

(2) 応募締切日

2018年12月14日(金) 必着

■ 選考

提出書類および面接により選考

お問合せと募集要項の請求は下記まで



一般財団法人 生涯学習開発財団 博士号取得支援事業部
〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-1-20 虎ノ門実業会館9階 TEL 03-3508-4551
募集要項・申請書は→ <http://www.gllc.or.jp> E-mail hakushi@gllc.or.jp

2017 (平成29年度)

50歳以上「博士号取得支援事業」

助成金授与者決定



平成29年度博士号取得支援事業の合格証授与式が3月16日(金)、東京・虎ノ門の生涯学習開発財団にて行われた。冒頭、財団理事長・松田妙子は、「博士号取得は目標ではなくスタートです。これから社会のため、国のため、それぞれの研究で培ったパワーを発揮し、大いに貢献してください。私の場合は、日本の伝統的木造住宅を復権させるために、建築の現場で活躍する大工の育成に尽力しました。私は90歳を超えても元気です。その源はバランスの良い食だと思っています。皆さんも健康に留意して研究を続けてください」と合格者たちを激励した。

●合格者と研究テーマ

大槻俊明 (67歳)

「数値制御工作機械の高速高精度性の評価と向上」

金沢淳子 (52歳)

「詩人が表現するアメリカ南北戦争」

越田智喜 (53歳)

「融解層情報を活用したレーダ雨量計の観測精度の向上に関する研究」

小西雅子 (58歳)

「気候変動政策推進のための国際NGOとメディアの相互作用に関する研究 ―WWF戦略的広報を中心として―」

戸部浩美 (53歳)

「育児中の親のレジリエンスを高めるプログラムの効果 ―怒りの情動に焦点を当てて― ランダム化比較試験」

三尾真由美 (60歳)

「中学校における認知行動療法(CBT)に基づくメンタルヘルス支援プログラムの有効性に関する研究」

(五十音順、年齢は授与式当日)